絵本にふれてみよう

配送課　宮本　剛佳

皆さん、こんにちは！　配送課の宮本です。

さて、皆さんはひと月にどれくらいの割合で図書館や本屋さんへ行かれますか？　私は週に1･2回程度です。本屋さんへ行くといろんなジャンルの本に出会います。私の子供がまだ幼い為、絵本のコーナーへと手を引っ張られ、絵本を読まされることがたびたびあります。その中でも子供が好きな絵本は“ノンタン”シリーズで「ノンタンバースデイブック」、「ノンタン！サンタクロースだよ」「ノンタンおねしょでしょん」などがあります。

作者のキヨノサチコ（清野幸子）さんは、1947年東京に生まれ、子供たちに大人気のノンタンの絵本を次々に生み出し、ロングセラー、ベストセラーとなり著書に「ノンタンあそぼうよ」シリーズ全22巻、「ノンタン・ボードブック」シリーズ全3巻、「赤ちゃん版ノンタン」全9巻、「ノンタン・タータンあそび図鑑」などがあり、アニメーションにもなっています。残念ながら作者である清野幸子さんは2008年に亡くなられていますが、今もなおノンタンシリーズは人気です。

このノンタンシリーズの中でも、上記にも挙げさせていただきましたが、子供が特に好きな2冊を少しだけご紹介させていただきます。

1冊目は「ノンタンバースデイブック」

主人公のノンタンとその仲間である動物たちが子供の成長を見守り、最後にバースデイケーキが出てきてお祝いをしてくれる物語です。この本の特徴は、中に子供の誕生日や年齢、身長、体重などが書き込め、自分だけのオリジナル絵本がつくれます。子供へのメッセージも書き込め、1年1年の成長を楽しめる絵本です。購入される方の中には1年に1冊この絵本を購入し、子供の成長を書き込み楽しんでいる方もいるようです。

2冊目は「ノンタン！サンタクロースだよ」

この本の中にはいろいろな動物のサンタクロースが出てきます。例えばパンダのサンタクロース、カンガルーのサンタクロース、ワニやペンギンのサンタクロースなどバラエティに富んでおり、中でも私の子供はトラのサンタクロースが好きなようで、よく「トラサンタ、トラサンタ」と喜んで読んでおります。このサンタクロースがバラエティに富んでいる理由も、パンダにはパンダのサンタクロース、カンガルーにはカンガルーのサンタクロースという具合に、それぞれプレゼントを配りに行く先が決まっているからなのです。ノンタンはねこの為、ねこのサンタクロースでないとノンタンのプレゼントは持っていません。一生懸命にねこのサンタクロースを探すノンタンの可愛らしさなども描かれています。結局ノンタンは探し疲れて寝てしまうのですが、ノンタンの元にもサンタクロースがやってきてくれるという夢のある楽しい物語です。

梅雨のこの時期に、時間があれば図書館や本屋さんへ出かけて子供さんと一緒に絵本を見る時間を作ってみてはいかがでしょうか？

橋本のつぶやき

インフルエンザしんどいですよね。しんどい時に「帰ってくるな！」という返信は悲しすぎます。家族だからこその本音？ですが、でもやっぱり悲しい。このメールを受けて返信をどう返したのかが気になるところです。

ノンタンシリーズ懐かしいです。私も幼少期に何冊も読みました！特に絵が好きでした。夢がいっぱい詰まったこの作品は今でも子供の心を掴んで離さず、愛され続けているのですね。良い絵本は残っていくものなのだなと改めて感じます。

インフルエンザ体験記

総務課　福島　秀明

インフルエンザに罹ってしまいました。大流行をしていることは知っていましたが、予防接種は受けてありましたので、まさか自分が罹るとは思ってもいませんでした。

その日は日曜日でしたが会社でイベントがあり、一日仕事でした。後片付けで雨に降られましたが、何時もの時間位には片づけも終わり、家に帰れました。何時もの時間に寝ようとしたのですが、なぜか体が痛くあまり眠れませんでした。

翌朝、何時ものように仕事に行きましたが、体がだるいような気がします。会社の体温計で測ってみると37.6℃ありましたので、仕事を早めに終えて、病院に行きました。病院で体温を測ってみると37.1℃に熱は下がっていました。診察を受け、症状を尋ねられました。関節の痛み、咳は少し出ています。体のだるさも少しありましたが、食欲はありました。嘔吐や下痢等の症状はありません。念のため、インフルエンザの検査をしましょうと言われ、綿棒の少し長いようなものを鼻の穴に入れられました。結果が出るのに少し時間が掛かると言われ、診察室の前で待っていると中に入るように呼ばれました。「インエフルエンザA型に罹っています」と診断され、「自宅で安静にしているように！」「出勤停止5日です」と言われました。学校保健安全法施行規則によると、インフルエンザの熱が下がった後は最低2日間（幼児は3日間）、かつインフルエンザ発症後5日間は自宅で療養しましょう、となっています。熱が下がっていても、しばらくはインフルエンザウィルスが体内に残っているため、他の人に感染させる可能性があるので自宅待機が必要です。大人もこれに準じて、出勤停止となるようです。

調剤薬局でインフルエンザの薬、イナビルという吸入粉末剤を2本処方されました。インフルエンザウィルスは増殖のスピードが速く、1個のウィルスが1日で約100万個に増えるといわれています。出来るだけ早い方が良いという事で、その場で2本の薬を吸引しました。これでインフルエンザの治療は終了です。それ以外に、痛みや熱を抑える薬、せきを抑える薬、たんや鼻水を出しやすくする薬、の3種類の錠剤4日分を処方されました。

その後会社に連絡をし、しばらく休むことを報告しました。そうして家に帰る前に「インフルエンザや」とLINEで家族に知らせると、直ぐに「帰ってくるな！」の返信がありました。

インフルエンザとはどういう病気でしょうか。インフルエンザウィルスがのどや気管支、肺で感染・増殖することにより発症します。インフルエンザに感染した場合、約1～3日の潜伏期間の後、発症します。1～3日で突然の38℃以上の高熱や全身倦怠感、食欲不振などの全身症状が強く現れます。やや遅れて、咳やのどの痛み、鼻水等の呼吸器症状が現れ、腰痛や吐き気などの消化器症状が現れることもあります。通常は10日前後で症状が落ち着き、治癒します。

私の場合、予防接種を受けてあった為か、高熱も出ず、重篤にならずに済みました。休みの間は、軽症ではありましたが、出来るだけ家族とも顔を合わせないように、部屋に閉じこもり、食事の時間もずらして過ごしていました。

あの時に病院に行かずに翌日も仕事を続けていたら、家や会社でインフルエンザウィルスをまき散らしていたかもしれません。インフルエンザは感染者の咳やくしゃみなどのしぶきなどを吸い込むことによって感染する飛沫感染です。もし同僚に感染させれば、その人の家族に、その家族の職場、学校、さらには人が密集している場所へ行けば知らない誰かへと、次々にインフルエンザの感染は広がっていきます。大袈裟かもしれませんが、私がパンデミック、世界的大流行の引き金になっていたかもしれません。

この新聞が発行される頃にはインフルエンザの流行も収まっているとは思います。インフルエンザの流行は毎年起こっています。予防接種を受ける、手洗い、うがい、マスクを着用等の予防をしていても感染する場合があります。おかしいと思ったら、早めに病院に行くことです。軽症であっても自宅待機はやむを得ません。パンデミックを引き起こしてはなりません。

参考
厚生労働省ホームページ　https://www.mhlw.go.jp/index.html
インフルニュース　https://www.influ-news.info/top.html